

たのしい算数2年

年間指導計画案

（学校での授業と、学校での授業以外の場において取り組む学習活動の併用版）

大日本図書編集局

【本資料の作成の考え方】

本資料は、休校措置にともなって学校の授業時間が十分に確保できない現状をふまえ、令和2年度用教科書「たのしい算数」について、学校の授業以外で取り組む学習等を年間の指導計画に示したものです。本資料では、以下の考え方をもとに、指導計画を作成しています。

- 授業は1単位時間45分で行われることを前提としています（30分の短縮授業などを取り入れる形式は想定していません）。
- 教科書の主問題（四角番号の問題）は、原則的に授業で扱うこととしています。
- 一部の主問題については、予習を活用して2時間扱いの部分をも1時間で扱うなど、短縮が考えられる箇所を示しました。
- 学校の授業以外で取り組む学習活動については、主に知識・技能の習熟を目的とした時間（単元末のたしかめ問題など）や既習の内容の活用を目的とした特設ページなどを想定しています。
- 一部の特設ページについては、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられることを示しました。

本資料はあくまで1つの例として示しています。各地域・学校の実情に合わせて、学校の授業以外での学習活動を増減していただくなど、弾力的にご活用ください。

【本資料の見方】

平時：授業時数127 → 授業以外での学習を取り入れた場合：授業内112 + 授業以外15

1 対称な図形 (指導時期 4月・10時間) → 授業内9時間 + 授業以外1時間

単元の目標

対称性に着目して図形を考察し、線対称、点対称の意味や性質などを理解し、対称な図形を作図することができる。
 知 線対称な図形や点対称な図形の意味や性質、作図の仕方について理解し、対称な図形を弁別したり、作図したりすることができる。
 考 対称という見方で図形を分類したり、性質や規則性を見出したりすることができる。また、線対称、点対称な図形を作図の仕方、性質をもとにして考えることができる。
 主 既習の図形を対称という観点で見直そうとして、身の回りから対称な形を見つけようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価標準例	学校の授業以外の場で行う場合の留意点
1 対称な図形 (教p.10～13)	1	①(ア)「ア」の「ア」の「ア」を観察することを通して図形の対称性に気づき、線対称、点対称な図形をみる観点として捉える。 ②「線対称な図形」「点対称な図形」の用語とそれらの定義を理解し、図形を弁別する。	知 「線対称」「対称の軸」「点対称」「対称の中心」の用語とそれらの意味を理解し、線対称な図形、点対称な図形を弁別できる。 考 身の回りの形や既習の多角形などについて、対称性に着目して考察している。	
	2	③線対称な図形の対応する点、辺、角を調べる。	知 線対称な図形について、対応する点、辺、角の意味や性質を理解している。	
2 線対称な図形 (教p.14～16)	3	④対応する点を結ぶ直線と対称の軸との関係を探り、線対称な図形の性質を理解する。	知 線対称な図形の対応する2点を結ぶ直線は、対称の軸によって垂直に2等分されることを理解し、その性質を用いて、対応する点を見つけることができる。	
	4	⑤線対称な図形を作図する。	知 線対称な図形の性質を用いて、線対称な図形を作図することができる。 考 線対称な図形の性質をもとに、作図する方法を考え、説明している。	
3 点対称な図形 (教p.17～19)	5	⑥点対称な図形の対応する点、辺、角を調べる。	知 点対称な図形について、対応する点、辺、角の意味や性質を理解している。	
	6	⑦対応する点を結ぶ直線と対称の中心との関係を探り、点対称な図形の性質を理解する。	知 点対称な図形の対応する2点を結ぶ直線は、対称の中心を通り、対称の中心によって2等分されることを理解し、その性質を用いて、対応する点を見つけることができる。	
	7	⑧点対称な図形を作図する。	知 点対称な図形の性質を用いて、点対称な図形を作図することができる。 主 線対称な図形を、性質をもとに作図したことを繰り返し、点対称な図形も性質をもとに作図しようとしている。	
4 多角形と対称 (教p.20～21)	8	⑨既習の四角形を対称の観点から見直す。	知 既習の四角形や三角形を対称という観点で捉え、対称の軸や対称の中心をかき入れることができる。 主 四角形の対称の学習をもとに、他の既習の図形についても、対称の観点から見直そうとしている。	予習でp.20主問題1の三角1、2、p.21主問題2の三角1、三角2の表をつくることに取り組む。 授業ではp.20,21の表を見て話し合うことから、はじめ、第8時、第9時を1時間で指導することも考えられる。
	9	⑩既習の正多角形を対称の観点から見直す。	知 正多角形に対称の軸や対称の中心をかき入れることができる。 考 正多角形の対称性に着目し、正多角形と対称の軸の本数や、点対称になる場合の長さについて見直している。	
たしかめ問題 (教p.22～23)	10 1 配 当 無	⑪基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 線対称な図形や点対称な図形の性質を理解し、図形を弁別したり、作図したりできる。 考 線対称な図形の弁別を台形の意味に着目して考えている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまり見られる場合は、個別に支援する。
ふくろう先生の なるほど算数教室1 (教p.24～25)		⑫身の回りから対称な形を探したり、折り紙で対称な形を作ったりして、図形の見方を深め、図形への興味・関心を高める。	主 身の回りに対称な図形があることに気づき、進んで探そうとしている。	

平時の場合の指導時期・指導時数

授業以外での学習活動を取り入れた場合の指導時数
 表中でオレンジ色とした箇所を授業以外にした場合の時数です。表中で「～することも考えられる」と示した部分を活用すると、さらに学校の授業時間を削減することができます。

授業や授業以外での指導の留意点を示しています。

平時に授業で扱うことを想定していた学習活動のうち、授業以外で取り組むこととする箇所はオレンジ色をつけました。
 また、もともと時数配当されておらず、予備時数などで扱うことを想定していた学習活動については、グレーの色で示しています。

2年

平時：授業時数147 → 授業以外での学習を取り入れた場合：授業内123 + 授業以外24

※無理なく着実に学習を保障することに配慮し、さまざまな取り組みを行ったうえで、なお年度当初に予定していた内容の指導を年度内に終えることが困難である場合には、特例的な対応として、内容の一部を次年度の指導で扱うことも考えられる。その場合でも、p.213の「2年のふくしゅう」は、今年度中に扱うことが望ましい(次年度に送った学習にあたる問題は省略する)。

1 せいりのしかた (指導時期 4月・3時間) → 授業内2時間 + 授業以外1時間

単元目標

身の回りの数量について、観点に着目して分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができる。
 知 身の回りの数量を分類整理し、簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすることができる。
 考 表やグラフに表すと、物の個数や多少などが分かりやすくなることを考えることができる。また、身の回りの数量を観点に着目して分類整理し、表やグラフを用いて考察することができる。
 主 表やグラフに表すことの良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 せいりのしかた (教p.10~15)	1	◎身の回りにある数量を分類整理して、簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりする。	考 数量を分類整理して捉え、簡単な表やグラフに表すと、数が分かりやすくなることを考えている。 主 表やグラフに表すことの良さに気づいている。	
	2	◎表やグラフを読み取り、その特徴を捉えたり、観点を変えて表やグラフをつくったりする。	知 観点を変えて、表やグラフに表すことができる。 考 表やグラフの特徴に気づき、その良さを考えている。	
たしかめもんだい (教p.16)	3 ↓	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすることができる。	学校の授業以外の場合で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
* クラスしようかいをしよう (教p.16)	配 当 無	* 表やグラフを活用し、クラスの紹介をする。		「クラスしようかいをしよう」は、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。または、学級活動の時間などに取り組むことも考えられる。

* 算数たまたばこ

2 2けたの たし算 (指導時期 4月・8時間) → 授業内7時間 + 授業以外1時間

単元目標

2位数の加法について、位ごとに分けて計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。
 知 2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、加法における交換法則を理解する。
 考 2位数の加法について、数の構成に着目し、既習の計算を活用して計算の仕方を考え、説明することができる。
 主 2位数の加法について、既習を生かして考えようとしたり、生活や学習に生かそうとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 2けたの たし算 (教p.17~29)	1	【アプローチ】 ◎おはじきを合わせる場面から、1学年で学習した加法を振り返り、2学年で学習する加法に興味・関心をもつとともに、本単元の見通しをもつ。	考 2位数+1位数の計算の仕方をもとに「何十何」+「何十」も10のまとまりとばらに分けて計算できることを見出している。 主 既習の加法の計算をもとに、「何十何」+「何十」の計算の仕方を考えようとしている。	
		◎「何十何」+「何十」の計算原理や方法を理解し、計算する。		
	2	◎繰り上がりのない2位数の加法の計算原理や方法を理解する。	知 2位数の加法は、十の位と一の位に分けて考えると計算できることを理解している。 考 数の構成に着目し、繰り上がりのない2位数の加法の計算の仕方を考え、説明している。 主 2位数の加法の多様な計算方法について、それぞれの考えの良さを認めたり、考えを関連付けたりしながら、話し合っている。	
3	◎繰り上がりのない2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 繰り上がりのない2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 前時で見出した位ごとに分ける計算の仕方を筆算の仕方と結び付けて考えている。		

	4	◎繰り上がりのないいろいろな2位数の加法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知「何十」+「何十」や1位数+2位数などの加法について、筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 筆算で位をそろえて書く理由について、位ごとに分けて計算する考え方をもとに説明している。	
	5	◎一の位が繰り上がる2位数の加法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 一の位の計算が繰り上がる2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 一の位の計算が繰り上がる2位数の加法の筆算の仕方について、位ごとに分けて考え、説明している。	
	6	◎一の位が繰り上がるいろいろな2位数の加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 一の位が空位になる計算や1位数+2位数などの繰り上がりのある2位数の加法について、筆算の仕方を理解し計算できる。 主 既習の筆算の仕方を使って、いろいろな場合の2位数の加法の筆算に取り組み、他の計算についても考えようとしている。	
2 たし算の きまり (教p.30~31)	7	◎具体的な場面を通して、加法の交換法則が成り立つことを理解する。	知 加法における交換法則を理解している。 考 見出した加法の交換法則について、いつでも成り立つかどうかを調べている。	
たしかめもんだい (教p.32)	8 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2位数の加法を筆算で計算することができる。 考 2位数の加法を表した図や式、筆算について、その考え方を説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

3 2けたの ひき算 (指導時期 4~5月・9時間) → 授業内7時間 + 授業以外2時間

単元目標

2位数の減法について、2位数の加法をもとに、位ごとに分けて計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。
 知 2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、加法と減法との相互関係を理解し、それをを用いて計算を確かめることができる。
 考 2位数の減法について、数の構成に着目し、既習の計算を活用して計算の仕方を考え、説明することができる。
 主 2位数の減法について、既習を生かして考えようとしたり、生活や学習に生かそうとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 2けたの ひき算 (教p.33~43)	1	〔アプローチ〕 ◎おはじきを取る場面から、加法のとくと同じような方法で求められるか考え、2学年で学習する減法に興味・関心をもつとともに、本単元の見通しをもつ。 ◎「何十何」-「何十」の計算原理や方法を理解し、計算する。	考 2位数の加法の計算の仕方をもとに、「何十何」-「何十」も10のまとまりとばらに分けて計算できることを見出している。 主 既習の減法の計算をもとに、「何十何」-「何十」の計算の仕方を考えようとしている。	p.34主問題1は、「位ごとにひき算する」考え方を意識化させ、主問題2へつなげているが、p.33アプローチページでそのことをおさえた上で、主問題1を省略し、主問題2から始めることも考えられる。 (主問題1の計算は、p.37で筆算として扱っているので、省略可能)
	2	◎繰り下がりのない2位数の減法の計算原理や方法を理解する。	知 2位数の減法は、十の位と一の位に分けて考えると計算できることを理解している。 考 数の構成に着目し、繰り下がりのない2位数の減法の計算の仕方を考え、説明している。	
	3	◎繰り下がりのない2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 繰り下がりのない2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 前時で見出した位ごとに分ける計算の仕方を筆算の仕方と結び付けて考えようとしている。	
	4	◎繰り下がりのないいろいろな2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 答えに空位ができる計算や2位数-1位数などの減法について、筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 筆算で位をそろえて書く理由について、位ごとに分けて計算する考え方をもとに説明している。	
	5	◎十の位から繰り下がる2位数の減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 十の位から繰り下がる2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 十の位から繰り下がる2位数の減法の筆算の仕方について、位ごとに分けて考え、説明している。	

	6 7 ↓ 1 時間 扱い	◎十の位から繰り下がる2位数の減法で、被減数の一の位が0の場合について、計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。 ◎十の位から繰り下がるいろいろな2位数の減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 被減数の一の位が0の場合の2位数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 既習の筆算をもとに、被減数の一の位が0の場合の筆算の仕方を考えている。 知 答えが1桁になる計算や2位数-1位数などの繰り下がりのある2位数の減法について、筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 これまでの学習を生かして、いろいろな場合の2位数の減法の筆算に取り組み、加法と減法の筆算についてまとめようとしている。	p.41主問題6とp.43主問題7は、筆算の様々な型を扱う時間である。それぞれの型の注意点を教えることを授業で扱い、練習問題を授業以外で扱うことで、第6、7時を1時間で扱う。
	2 計算の たしかめ (教p.44~45) * たし算の たしかめ (教p.45)	8	◎具体的な場面を通して、加法と減法の相互関係を理解し、それを活用して計算の確かめをする。 * 加法の確かめが減法でできることを理解する。	知 加法と減法の相互関係を理解し、それを活用して計算の確かめができる。 考 見出した加法と減法の相互関係について、いつでも成り立つかどうかを調べている。
たしかめもんだい (教p.46)	9 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2位数の減法を筆算で計算することができる。 考 2位数の減法の仕方を表した図や式、筆算について、その考え方を説明している。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

* 算数たまたばこ

4 長さの たんい (指導時期 5月・9時間) → 授業内7時間 + 授業以外2時間

単元目標

長さの表し方を考え、長さの単位の意味や関係、ものさしの仕組みを理解し、ものさしを用いて長さを測定したり、直線をひいたりすることができる。知 長さの単位cm、mmとその関係(1cm=10mm)を理解し、ものさしを用いて長さを測定したり、直線をひいたりすることができる。また、簡単な場合について、長さの加減の計算ができる。

考 長さの表し方を考え、普遍単位の必要性や下位単位の必要性に気づく。

主 普遍単位を用いて長さを表す良さに気づき、長さの単位やものさしを用いた長さの測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 長さの あらわし方 (教p.47~56)	1	◎長さの普遍単位の必要性に気づき、普遍単位「cm」を知る。また、長さをcm単位で表す。	知 長さの単位に「センチメートル」があることや普遍単位の良さを理解し、cm単位で長さを表すことができる。 考 異なる任意単位では長さが比べられないことから、普遍単位の必要性に気づいている。	
	2 3 ↓ 1 時間 扱い	◎目盛りテープを用いて、cm単位で長さを測定する。 ◎短い長さの単位「mm」を知り、cm、mmの単位で長さを表す。	知 cm単位での長さの表し方を理解し、長さを測定することができる。 考 cm単位の限界に気づき、下位単位であるmmの必要性を考えている。	p.50主問題2の線の長さをはかったあと、p.51主問題3へ進めることで、第2、3時を1時間で扱う。p.50鉛筆2は宿題などの授業以外の扱いとする。鉛筆3、4は省略するか、p.56主問題7の活動のはじめに扱う。
	4	◎ものさしを用いた測定の仕方を理解し、物の長さをcm、mm単位で測定する。	知 ものさしを用いた長さのはかり方を理解し、長さをはかることができる。	
	5	◎1cm=10mmの関係をもち、長さの単位換算の仕方を理解する。	知 1cm=10mmの関係を理解し、単位の換算ができる。	
	6	◎ものさしを用いて必要な長さの直線をひく。	知 「直線」の用語とその意味、直線のひき方を理解し、ものさしを用いて必要な長さの直線をひくことができる。	
	7	◎ものさしを用いて身の回りの物の長さを測定する。 *ものさしの構造について理解を深める。	主 身の回りの物の長さに進んで関わり、様々な場所の長さを測定しようとしている。	
	*ものさしの つかい方			
2 長さの 計算 (教p.57)	8	◎長さについて加法、減法が適用できることを理解し、簡単な長さの加減の計算をする。	知 長さの簡単な加減の計算ができる。	
たしかめもんだい (教p.58)	9 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 長さの単位cm、mmの意味や単位の関係を理解し、ものさしを用いて長さを測定したり、必要な長さの直線をひいたりすることができる。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

* サッカーゲーム (教p.59)	1	* ゲームを通して指定された長さの直線をひく練習をする。	知 ものさしを使って必要な長さの直線をひくことができる。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
-------------------	---	------------------------------	------------------------------	-----------------------------

* 算数たまたばこ

5 100より大きい数 (指導時期 6月・11時間) → 授業内10時間 + 授業以外1時間

単元目標

1000までの数について、構成、表し方、読み方などを理解するとともに、何十と何十の加法及びその逆の減法の計算をすることができる。
 知 1000までの数の構成、表し方、読み方、順序、系列、大小、相対的な大きさについて理解する。また、何十と何十の加法及びその逆の減法の計算をすることができる。
 考 1000までの数の構成、表し方、読み方などを既習の数から類推して考えることができる。また、数を10を単位として相対的にみるなど多面的に捉え、それを生かして、加法、減法の計算の仕方を考え、説明することができる。
 主 既習の数の学習を生かして数の構成や表し方、読み方について考えようとしたり、より大きな数の表し方について発展的に考えようとしたりする。また、身の回りから数が使われている場面を見つけようとするなど、数の表し方、読み方などを生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 数の あらわし方 (教p.60~70) *おはじきで 数をつくろう (教p.65)	1 2	◎3位数の構成や表し方、読み方を理解する。	知 3位数の数え方、構成、表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。 考 既習の2位数の表し方から類推して、3位数の表し方を考えている。 主 既習の数の数え方を生かして、具体物の数を工夫して数えようとしている。	
	3	◎空位のある3位数の構成や表し方、読み方を理解する。 *位取り板とおはじき3個でいろいろな数をつくる。	知 空位のある3位数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。	
	4	◎10を10個以上集めた数を、何百何十と捉える。	知 10を10個以上集めた数を表すことができる。 考 10を単位として数を構成したり、相対的にみたりしている。	
	5	◎何百何十を10のいくつ分と捉える。	知 何百何十を10を単位として表すことができる。 考 10を単位として数を構成したり、相対的にみたりしている。	
	6	◎数直線の読み方や3位数の順序、系列を理解する。	知 数直線の仕組みを理解し、数直線上に表された数を読んだり、数直線上に数を表したりすることができる。	
	7	◎3位数の大小比較の仕方を理解する。	知 3位数の大小比較の仕方を理解している。	
	8	◎1つの数を多面的にみて表す。	考 3位数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。	
2 千 (教p.71)	9	◎1000の構成や大きさ、表し方、読み方を理解する。	知 1000の構成や大きさ、表し方、読み方を理解している。 主 数を100のまとまりで捉えた学習を生かし、1000という数の大きさや表し方を考えようとしている。	
3 たし算と ひき算 (教p.72)	10	◎何十と何十の加法及びその逆の減法の計算原理、方法を理解し、計算する。	知 何十と何十の加法及びその逆の減法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 10を単位とした数の見方に着目し、計算の仕方を考え、説明している。	
たしかめもんだい (教p.73~74) *みのまわりから数を見つけよう (教p.74)	11 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 *身の回りから1000までの数を見つけよう。	知 1000までの数の構成、表し方、系列、大小、相対的な見方を理解し、数を表したり、何十と何十の加法及びその逆の減法の計算をしたりすることができる。 考 数の構成に着目し、数の大きさの比べ方について考え、説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。「みのまわりから数を見つけよう」は、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
読みとる方を のぼそう (教p.75)	1	◎数を用いて位置が整理できることを理解し、情報から位置を特定したり、位置を特定する情報をつくらう。	知 与えられた情報から、位置を特定したり、位置を表す説明を多様に表現したりできる。 主 身の回りで使われている数に進んで関わり、その仕組みを調べようとしている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
ふくしゅう (教p.76)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。 *算数たまたげこ

*算数たまたげこ

6 かさの たんい (指導時期 6~7月・6時間) → 授業内5時間 + 授業以外1時間

単元の目標

かさの表し方を考え、かさの単位の意味や関係を理解し、1dLます、1Lますを用いて測定することができる。
 知 かさの単位mL、dL、Lとそれらの関係を理解し、適切なかさの単位を用いて、身の回りの具体物のかさを測定することができる。
 考 長さの普遍単位から類推して、かさについても普遍単位の必要性を見出したり、必要に応じて、1つの単位から新しい単位をつくることを見出したりすることができる。
 主 普遍単位を用いてかさを表す良さに気づき、かさの単位や測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 かさの あらわし方 (教p.77~84)	1	◎かさの普遍単位の必要性に気づき、普遍単位「dL」を知る。また、水のかさをdL単位で表す。	知 かさの単位に「デシリットル」があり、「dL」と書くことを理解し、dLを用いてかさを表すことができる。 考 長さの学習をもとに、かさを表す方法を考えている。	
	2	◎かさの単位「L」を知り、1L=10dLの関係を理解する。	知 Lの単位の必要性や1L=10dLの関係を理解し、LやdLを用いてかさを表すことができる。 考 長さの測定と同じように、十進構造に着目して、10dL=1Lであることを考えている。	
	3	◎かさについても加法、減法が適用できることを理解し、簡単なかさの加減の計算をする。	知 かさの簡単な加減の計算ができる。	
	4	◎目分量で1Lの水を入れ物に入れたり、1Lますや1dLますを用いて、身の回りの入れ物に入る水のかさを測定したりする。	知 容器に入る水のかさを、1dLますや1Lますでははかることができる。主 dLでははかりきれない量に着目し、dLより小さい単位がないかと発展的に新しい問題を見出している。	
	5	◎かさの単位「mL」を知り、1L=1000mL、1dL=100mLの関係を理解する。	知 mL単位の必要性と、1L=1000mL、1dL=100mLの関係を理解している。	
たしかめもんだい (教p.85) *いろいろな かさがし (教p.85)	6 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 *身の回りからかさをL単位やmL単位で表している入れ物を探し、かさの単位や量についての関心を高める。	知 かさの単位とその関係を理解し、水のかさを表したり、かさの簡単な加減の計算をしたりすることができる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまりが見られる場合は、個別に支援する。「いろいろな かさがし」は、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

*算数たまたまぼこ

7 時こくと 時間 (指導時期 7月・6時間) → 授業内4時間 + 授業以外2時間

単元の目標

時刻と時間の違い、時間の単位の関係などを理解し、時刻や時間を表すことができるとともに、時刻や時間を生活に生かすことができる。
 知 時刻と時間の意味の違いや時間の単位(日、時、分)の関係、午前、午後の意味を理解し、簡単な場合について時刻や時間を求めたり、表したりすることができる。
 考 時計の表す時刻や針の動き、時間の数直線などをもとに、時刻や時間の求め方を考えることができる。
 主 日常生活に必要な時刻や時間を表現するなど、時刻や時間の表し方、求め方を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 時こくと 時間 (教p.86~92)	1	[アプローチ] ◎教p.86の絵をもとに、駅で電車の発車を待つことなどの経験を話し合い、時刻や時間に対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつ。 ◎時刻と時間の意味を理解し、簡単な場合の時間を求める。	知 時刻と時間の意味の違いや、簡単な場合の時間の求め方を理解し、時間を求めることができる。 主 時刻と時間の学習を生活と結び付けて捉え、時間の求め方などに進んで関わろうとしている。	
	2	◎1時間=60分の関係について理解する。	知 1時間=60分の関係を理解し、簡単な場合の時間を求めることができる。	
	3	◎「午前」、「午後」の用語とそれらの意味を理解し、それらを用いて時刻を表す。	知 「午前」、「午後」の用語とそれらの意味や、1日=24時間の関係を理解し、「午前」、「午後」を用いて時刻を表すことができる。	p.91鉛筆8の活動を宿題などの授業以外の扱いとし、第3、4時を1時間扱いとする。
	4 ↓ 1 時 間 扱 い	◎1日=24時間の関係について理解する。		

	5	◎簡単な場合について、ある時刻から一定時間前後の時刻を求める。	知 ある時刻から一定時間後の時刻や一定時間前の時刻を求めることができる。 考 時計の文字盤や数直線をもとに、ある時刻から一定時間後の時刻の求め方を考え、説明している。	
たしかめもんだい (教p.93～94)	6 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 時刻と時間の意味の違いや、1時間＝60分、1日＝24時間などの関係を理解し、時刻や時間を求めることができる。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
おうちで算数 (教p.94)		◎既習を生かし、時刻や時間を意識して生活する。		

*時こくの あらわし方 (教p.95)	1	*時刻表をもとに、24時制の時刻の表し方とその良さを理解する。	知 12時制と24時制の表し方を理解している。 主 24時制の良さ気づき、生活に生かそうとしている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
ふくしゅう (教p.96～97)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。 *算数たまたまばこ

8 たし算とひき算のひっ算 (指導時期 9月・11時間) → 授業内9時間 + 授業以外2時間

単元の目標

2位数の加法(和が3位数)とその逆の減法について、既習の計算をもとに筆算の仕方を考え、計算することができる。
 知 2位数の加法(和が3位数)とその逆の減法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、加法の結合法則について理解し、工夫して計算することができる。
 考 数の仕組みに着目したり、既習の筆算から類推したりして、加法や減法の筆算の仕方を考え、説明することができる。
 主 既習の計算をもとにして筆算の仕方考えようしたり、桁数の多い計算など発展的に新しい問題を見出したりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 たし算のひっ算 (教p.98～103)	1	【アプローチ】 ◎既習の計算を振り返り、十の位が繰り上がる2位数+2位数や百の位から繰り下がる3位数(百の位が1)－2位数に対する見通しをもつ。 ◎2位数+2位数で十の位が繰り上がる加法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 2位数+2位数で、十の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 既習事項をもとにして、十の位が繰り上がる2位数+2位数の筆算の仕方を考えようとしている。	
	2	◎2位数+2位数で一の位と十の位が繰り上がる加法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 2位数+2位数で一の位と十の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 2位数+2位数で一の位と十の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を、既習事項をもとにして考え、説明している。	
	3	◎2位数までの加法で、一の位、十の位と波及的に繰り上がる加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 2位数までの加法で、一の位、十の位と波及的に繰り上がる加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
2 たし算のきまり (教p.104～105)	4	◎加法ではたす順序を変えても答えは変わらないこと(加法の結合法則)を理解し、それを活用して計算を工夫する。	知 加法の結合法則を理解し、工夫して計算することができる。	
れんしゅう (教p.106)	5 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容に習熟し、それを活用する。	知 2位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
3 ひき算のひっ算 (教p.107～112)	6	◎3位数(百の位が1)－2位数で、百の位から繰り下がる減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数(百の位が1)－2位数で、百の位から十の位へ繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 既習事項をもとにして、3位数(百の位が1)－2位数で、百の位から十の位へ繰り下がる減法の筆算の仕方を考えようとしている。	
	7	◎3位数(百の位が1)－2位数で、百の位と十の位から繰り下がる減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数(百の位が1)－2位数で、百の位と十の位から繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 3位数(百の位が1)－2位数で、百の位と十の位から繰り下がる減法の筆算の仕方を既習事項をもとにして考え、説明している。	

	8	◎3位数(百の位が1)－2位数で、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数(百の位が1)－2位数で、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 3位数(百の位が1)－2位数で、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を既習事項をもとにして考え、説明している。	
	9	◎3位数(百の位が1)－1, 2位数で、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数(百の位が1)－1, 2位数で、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 既習の加法、減法をもとに、さらに大きな数の計算についても考えられないかと発展的に新しい問題を見出している。	
4 大きな数のたし算とひき算(教p.113)	10	◎3位数+1, 2位数及び3位数－1, 2位数の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数+1, 2位数及び3位数－1, 2位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 3位数の百の位が1より大きい場合にも既習の筆算の仕方を適用して考えている。	
たしかめもんだい(教p.114)	11 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2位数までの加法(和が3位数)やその逆の減法、及び簡単な場合の3位数の加法、減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

* ひっ算をつくろう(教p.115)	1	* 2位数と2位数の加法及び減法の計算の理解を深める。	考 加法の交換法則や加法と減法の相互関係、筆算の手順をもとに、□に当てはまる数を筋道立てて考えている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
ふくしゅう(教p.116)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

* 算数たまたばこ

9 三角形と四角形 (指導時期 9～10月・12時間) → 授業内10時間 + 授業以外2時間

単元の見直し

辺、頂点などの図形の構成要素に着目して、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形の特徴を見出し、定義に基づいて弁別したり、作図したりすることができる。
知 三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形の定義や構成要素(辺、頂点、直角)、性質について理解し、定義に基づいて弁別したり、作図したりすることができる。
考 図形の構成要素に着目し、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形の特徴を見出すことができる。また、定義に基づいて図形を弁別し、そのわけを説明することができる。
主 身の回りから三角形や四角形を見つけようとする。また、図形の敷き詰めをたのしみ、模様的美しさや平面のひろがりを感じよう。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 三角形と四角形(教p.117～120)	1	◎直線で囲んだ図形を分類する活動を通して、「三角形」、「四角形」の用語とそれらの定義、構成要素の「へん」、「ちょう点」を知り、三角形や四角形を作図する。	知 「三角形」、「四角形」の用語とそれらの定義、構成要素(辺、頂点)について理解している。 考 辺や頂点に着目して、三角形や四角形を弁別したり、特徴を見出し、それを説明している。	
	3	◎定義に基づいて、三角形と四角形を正しく弁別し、そのわけを説明する。	考 定義に基づいて三角形か四角形かを弁別し、そのわけを説明している。	
	4	◎三角形や四角形を1本の直線で切り、どのような形ができるかを調べる。	考 頂点や辺に着目し、どんな形ができるか調べている。	図形の見方を深める学習であるので、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
	5	◎紙を折って直角をつくる活動を通して、「直角」の用語とその意味を知り、身の回りから直角を探す。	知 「直角」の用語とその意味を理解している。 主 身の回りから、直角をいろいろと見つけようとしている。	
2 長方形と正方形(教p.121～123)	6	◎紙を折って長方形をつくる活動を通して、「長方形」の用語とその定義、性質について理解する。	知 「長方形」の用語とその定義、性質を理解している。 考 構成活動をもとに、長方形の構成要素の特徴を見出している。	
	7	◎長方形の紙を使って正方形をつくる活動を通して、「正方形」の用語とその定義を理解し、定義に基づいて図形を弁別する。	知 「正方形」の用語とその定義を理解している。 考 構成活動をもとに、正方形の特徴を見出すとともに、定義をもとに図形を弁別し、そのわけを説明している。	

3 直角三角形 (教p.124~125)	8 9 ↓ 1 時間 扱い	◎紙を使って直角三角形をつくる活動を通して、「直角三角形」の用語とその定義を理解し、図形を弁別する。	知「直角三角形」の用語とその定義を理解している。 考 直角三角形の特徴を見出すとともに、定義をもとにして図形を弁別し、そのわけを説明している。	p.124主問題1の活動の後、p.125主問題2の活動へ進め、鉛筆1, 2, 3を宿題などの授業以外の扱うとすることで、第8, 9時を1時間扱いとする。(鉛筆2は、学習を深める活動であるので、省略することも考えられる。)
		◎方眼を使って長方形、正方形、直角三角形をかく活動を通して、長方形、正方形、直角三角形についての理解を深める。	知 長方形や正方形、直角三角形の定義や性質を理解し、方眼を使って作図することができる。	
4 もようづくり (教p.126)	10	◎合同な長方形、正方形、直角三角形で敷き詰め模様を作り、図形に対する感覚を豊かにする。	主 平面を敷き詰める活動をたのしみ、模様の美しさや平面のひろがりを感じている。	
たしかめもんだい (教p.127~128)	11 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 長方形、正方形、直角三角形の用語やその構成要素、定義や性質について理解し、方眼を用いて作図することができる。 考 定義に基づいて正方形を弁別し、そのわけを説明している。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
* 三角形や 四角形を さがそう (教p.128)	12	*身の回りから三角形や四角形の形をした物を見つけ、三角形や四角形についての理解を深める。	主 身の回りの様々な物について、三角形や四角形とみることができる形を先で見つけようとしている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

*算数たまたばこ

10 かけ算 (指導時期 10~11月・15時間) → 授業内13時間 + 授業以外2時間

単元目標

乗法の意味を理解し、その意味や乗法に関して成り立つ性質をもとに乗法九九を構成し、九九を唱えることができるとともに、具体的な場面で乗法を用いることができる。
 知 乗法の意味や「ばい」の意味を理解し、乗法の場面を半具体物や式、言葉などを用いて表すとともに、乗法九九(2~5の段)の構成の仕方や唱え方を理解し、唱えることができる。
 考 場面の数量の関係に着目し、「1つ分の大きさ」や「いくつ分」を捉えて、全体の個数の求め方について考えたり、乗数が1増えると積が被乗数分増える性質を見出し、それを活用して九九を構成することができる。
 主 累加の簡潔な表現としての乗法の良さや九九の良さに気づき、身の回りから乗法の場面を見つけようとするなど、乗法を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 かけ算 (教p.129~134)	1	◎具体的な場面を通して、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。	知 全体の数量を基準とする大きさのいくつ分と表現できる。 考 全体の数量を基準とする大きさのいくつ分として捉えている。	
	2	◎乗法の意味や式表示の仕方、乗法の答えは加法(同数累加)によって求められることを理解する。	知 乗法は同数の物がいくつあるときに用いることや式表示の仕方を理解し、乗法の場面を式に表したり、答えを累加で求めたりすることができる。	
	3 4 ↓ 1 時間 扱い	◎おはじきを並べる活動を通して、乗法の意味や式表示の仕方の理解を深める。	知 乗法の式をおはじきの並びで表したり、おはじきの並びから立式したりすることができる。	身の回りから乗法を探す活動は、授業以外での扱いとし、発表のみp.134主問題3の時間と一緒に扱うことで、第3, 4時を1時間扱いとする。
		◎身の回りから同じ数ずつまとめた物を探し、乗法の式に表すことの意味を深める。	知 物の数を乗法の式に表すことができる。 主 既習の乗法の式を使って、身の回りの様々な物の数を表そうとしている。	
2 九九 (教p.135~142)	5	◎2の段の九九を構成する。また、「九九」の用語とその意味を理解する。	知 2の段の九九の構成の仕方を理解し、構成することができる。	
	6	◎2の段の九九を正しく唱えたり、適用したりする。	知 2の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	
	7	◎5の段の九九を構成する。	知 5の段の九九の構成の仕方を理解し、構成することができる。	
	8	◎5の段の九九を正しく唱えたり、適用したりする。	知 5の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	
	9	◎かける数が1増えると答えが3増えることを活用して、3の段の九九を構成する。 ◎「かけられる数」、「かける数」の用語とそれらの意味を理解する。	知 乗数が1増えると答えが3増えることを理解し、3の段の九九を構成することができる。また、「かけられる数」、「かける数」の用語とそれらの意味を理解している。	
	10	◎3の段の九九を正しく唱えたり、適用したりする。	知 3の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	
11	◎かける数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。	知 乗数が1増えると答えが4増えることを理解し、4の段の九九を構成することができる。 知 乗数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九の構成を考えている。		
	12	◎4の段の九九を正しく唱えたり、適用したりする。	知 4の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	

3 ばいと かけ算 (教p.143~144)	13	◎もとにする量(連続量)のいくつ分を「ばい」で表現することを知り、その大きさを乗法の式に表す。	知「〇ばい」の意味を理解し、「ばい」という用語を用いたり、乗法の式に表したりすることができる。	p.143主問題1, p.144主問題2を1時間で扱い、鉛筆問題を授業以外での扱いとすることで、第13, 14時を1時間で扱うことも考えられる。
	14	◎分離量でも連続量と同じように「ばい」を用いて表すことを知り、乗法の式に表す。	知「ばい」の理解を深め、分離量の場面を乗法の式に表すことができる。	
たしかめもんだい (教p.145)	15 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 乗数と積の関係を理解するとともに、2の段から5の段の九九を唱えることができる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
* かけ算ビンゴ (教p.146)	1	* 九九カードを用いてかけ算ビンゴをし、2の段から5の段までの九九に習熟する。	知 2の段と5の段の九九を正しく唱えることができる。	
* 九九の カードゲーム (教p.147)	1	* ゲームを通して、2の段から5の段までの九九に習熟する。	知 2の段から5の段の九九の答えについて理解し、正しく唱えることができる。	

* 算数たまたばこ

11 かけ算九九づくり (指導時期 11~12月・10時間) → 授業内9時間 + 授業以外1時間

単元目標

乗法の意味の理解を深め、乗法に関して成り立つ性質をもとに、乗法九九を構成するとともに、九九を唱え、用いることができる。
 知 乗法九九(6, 7, 8, 9, 1の段)を構成の仕方と唱え方を理解し、確実に唱えることができる。
 考 乗法に関して成り立つ性質を用いて、乗法九九の構成の仕方考えることができる。
 主 既習の段の九九から新しい段の九九を考えようと学習をひろげたり、既習の構成の仕方を生かして新しい段の九九の構成の仕方考えようとする。また、乗法九九の良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 かけ算九九づくり (教p.148~155)	1	[アプローチ] ◎2の段から5の段までの九九の答えを表に書き、他の段への興味・関心を高める。 ◎かける数が1増えると答えが6増えることや被乗数と乗数を入れ替えた九九を活用して、6の段の九九を構成する。	知 乗数が1増えると答えが6増えることなどを理解し、6の段の九九を構成することができる。 考 既習の乗法を活用して、6の段の九九の構成を考えている。	
	2	◎6の段の九九を正しく唱えたり、適用したりする。	知 6の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	
	3	◎かける数が1増えると答えが7増えることや被乗数と乗数を入れ替えた九九を活用して、7の段の九九を構成する。	知 乗数が1増えると答えが7増えることなどを理解し、7の段の九九を構成することができる。 主 6の段の構成で学んだ既習の乗法の活用の仕方を7の段の構成でも用いようとしている。	
	4	◎7の段の九九を正しく唱えたり、適用したりする。	知 7の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	
	5	◎かける数が1増えると答えが8増えることや8を分けた2つのかけ算を活用して、8の段の九九を構成する。	知 乗数が1増えると答えが8増えることなどを理解し、8の段の九九を構成することができる。 考 既習の乗法を活用して、8の段の九九の構成を考えている。	
	6	◎8の段の九九を正しく唱えたり、適用したりする。	知 8の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	
	7	◎かける数が1増えると答えが9増えることや9を分けた2つのかけ算を活用して、9の段の九九を構成する。	知 乗数が1増えると答えが9増えることなどを理解し、9の段の九九を構成することができる。 主 8の段の構成で学んだ既習の乗法の活用の仕方を9の段の構成でも用いようとしている。	
	8	◎9の段の九九を正しく唱えたり、適用したりする。	知 9の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。	
	9	◎被乗数が1の乗法の意味を理解する。また、1の段の九九を構成し、正しく唱えたり、適用したりする。	知 1の段の九九の意味や構成の仕方を理解し、唱えることができる。	
たしかめもんだい (教p.156~157)	10 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 6, 7, 8, 9及び1の段の九九の構成の仕方を理解し、唱えることができる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
おうちで算数 (教p.157)		◎かけ算しりとりゲームを通して、九九に習熟する。		

12 長いものの長さのたんい (指導時期 12月・5時間) → 授業内4時間 + 授業以外1時間

単元目標

長い物の長さの測定の仕方や表し方を考え、長さの単位mやcmとの関係を理解し、1mのものさしを用いて、長さを測定することができる。
 知 長さの単位mやcmとの関係(1m=100cm)を理解し、1mのものさしを用いて、長さを測定したり、m、cm単位で表された長さの加減の計算をしたりすることができる。
 考 大きな単位を用いれば長い物の長さを小さな数で表せる良さを見出すことができる。
 主 mの単位を用いて長さを表す良さや1mのものさしの良さに気づき、長さの単位や測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 長いものの長さ あらし方 (教p.158~163)	1 2	[アプローチ] ◎教p.158の場面をもとに30cmより長いものさしの必要性に気づき、長い物の長さに対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつ。 ◎長さの単位「m」を知り、1m=100cmの関係を理解する。 ◎比較的長い物の長さを、mとcm単位で表す。	知 m単位の必要性や1m=100cmの関係を理解し、長さをmやcmの複名数で表したり、単名数で表したりすることができる。 考 大きな単位を用いれば、長い物の長さを小さな数で表せると考えている。	
		◎テープで1mの長さをつくったり、身の回りの物の長さを1mのものさしで測定したりする。	知 1mの長さの見当をつけたり、1mのものさしを用いて長さを測定したりすることができる。 主 身の回りの物の長さに進んで関わり、様々な場所の長さを測定しようとしている。	
	◎m、cm単位で表された長さの加減の計算をする。	知 m、cm単位で表された長さの加減の計算の仕方を理解し、長さの加減の計算ができる。		
	5 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 長さの単位mとcmの関係を理解し、長さの加減の計算ができる。 考 長さの加法または減法の問題をつくっている。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

ふくしゅう (教p.165)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
読みとる力を のぼそ う (教p.166~167)	1	◎与えられた情報を整理したり、選択したりして、条件に合うものを筋道立てて考える。	考 自分の考えを、式や言葉を使って表現している。 主 与えられた情報を進んで整理したり、選択したりして、問題を解決しようとしている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

13 1000より大きい数 (指導時期 1月・9時間) → 授業内8時間 + 授業以外1時間

単元目標

10000までの数について、既習の数と関連付けて考え、数の構成、表し方、読み方などを理解するとともに、何百と何百の加法や減法の計算をすることができる。
 知 10000までの数の構成、表し方、読み方、順序、系列、大小、相対的な大きさについて理解し、数を読んだり、表したりすることができる。また、何百と何百の加法で繰り上がりのある計算や、何百、千から何百をひく減法の計算ができる。
 考 10000までの数の構成、表し方、読み方を既習の数の仕組みから類推的に考えることができる。また、数を多面的にみることができるとともに、それを用いて加法、減法の計算の仕方を考え、説明することができる。
 主 身の回りの物の数字を読むとうとするなど、数の表し方、読み方などを生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 大きな数の あらし方 (教p.168~175)	1	◎4位数の構成を理解し、数えたり、表したり、読んだりする。	知 4位数の構成、表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。 考 既習の数の表し方から類推して、4位数の表し方を考えている。 主 既習を生かして4位数を表したり、読んだりしようとしている。	
		◎空位のある4位数の構成を理解し、表したり、読んだりする。	知 空位のある4位数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。	
	3	◎100を10個以上集めた数を何千何百と捉える。	知 100を10個以上集めた数を表すことができる。 考 100を単位として数を構成したり、数を相対的にみたりしている。	

	4	◎何千何百を100のいくつ分と捉える。	知 何千何百を100を単位として表すことができる。 考 100を単位として数を構成したり、数を相対的にみたりしている。	
	5	◎数直線の読み方や4位数の順序、系列を理解する。 ◎4位数の大小比較の仕方を理解する。	知 数直線上に表された数を読んだり、数直線上に数を表したりすることができる。また、4位数の大小比較の仕方を理解している。	
	6	◎1つの数を多面的にみて表す。	考 4位数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。	
2 一万 (教p.176~177)	7	◎10000の構成や、大きさ、表し方、読み方を理解する。	知 10000の構成や、大きさ、表し方、読み方を理解し、10000までの数を数直線上に表したり、表された数を読み取ったりすることができる。	
3 何百の たし算とひき算 (教p.178)	8	◎何百と何百の加法や減法の計算原理、方法を理解し、計算する。	知 「何百」+「何百」、「何百」-「何百」、1000-「何百」の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 100を単位とした数の見方に着目し、何百と何百の加法や減法の計算の仕方を考え、説明している。	
たしかめもんだい (教p.179)	9 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 4位数の構成、表し方、大小、数直線の読み方を理解している。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

14 たし算とひき算の かんけい (指導時期 1~2月・6時間) → 授業内5時間 + 授業以外1時間

単元目標

加法や減法の場面の数量の関係をテープ図や式に表して捉え、問題を解決することができる。
 知 加法と減法は互いに逆の関係になっていることなど、加法と減法の相互の関係について理解する。また、テープ図の意味や表し方を理解し、図をもとに場面を式に表すことができる。
 考 数量の関係に着目し、場面を図に表し、加法と減法の相互関係を考えて式に表すことができる。
 主 数量の関係を図に表すことの良さに気づき、学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 たし算とひき算の かんけい (教p.180~187)	1	◎テープ図の意味と表し方を理解し、合併の場面をテープ図と式で表す。	知 テープ図の意味や表し方を理解し、問題場面をテープ図に表すことができる。 主 簡便にかけるというテープ図の良さに気づき、場面を図に表そうとしている。	
	2	◎増加の場面をテープ図に表し、立式して加法と減法の相互関係の理解を深める。	知 増加の場面をテープ図に表し、全体を求めるときは加法、部分を求めるときは減法が用いられることを理解している。	
	3	◎加法の逆思考の問題について、数量の関係をテープ図や式に表して解決する。	考 加法の逆思考の問題について、数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。 主 テープ図を用いると数量の関係を捉えやすくなることに気づき、学習に生かそうとしている。	
	4	◎減法逆の減法の問題について、数量の関係をテープ図や式に表して解決する。	考 減法逆の減法の問題について、数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。	
	5	◎減法の逆思考の問題について、数量の関係をテープ図や式に表して解決する。	考 減法の逆思考の問題について、数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。	
たしかめもんだい (教p.188)	6 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	考 数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

*どんな 計算 するの かな (教p.189)	1	* 具体的な問題場面で、加法、減法、乗法のどの演算を用いればよいか判断し、問題を解決する。	考 数量の関係を正しく捉え、式をたてた根拠を言葉、テープ図などで説明することができる。 主 立式の根拠を説明するために、テープ図などの既習事項を活用しようとしている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
-------------------------------	---	---	--	-----------------------------

* 算数たまたまぼこ

15 かけ算の きまり (指導時期 2月・7時間) → 授業内5時間 + 授業以外2時間

単元目標

乗法について成り立つ性質やきまりを理解するとともに、12までの2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えたり、全体の数を乗法を用いて工夫して求めたりすることができる。

知 乗法について成り立つ性質やきまりを理解する。また、全体の数を乗法を用いて求めることができる。

考 12までの2位数と1位数との乗法の計算の仕方を、乗法について成り立つ性質やきまりをもとに考えることができる。また、数のまとまりに着目し、全体の数の求め方を工夫して考え、説明することができる。

主 身の回りから乗法が用いられる場面を見つけたり、工夫して乗法を適用しようとしたりするなど、乗法を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 かけ算の きまり (教p.190～197)	1 2 ↓ 1時間 扱い	◎乗法九九の表を見て気づいたことをもとにして、乗数と積の関係を乗法の性質としてまとめる。	知 乗数が1増えると積は乗数分だけ増えることを理解している。 主 乗法九九の表から乗法について成り立つ性質やきまりをいろいろと見つけようとしている。	p.191主問題1とp.192主問題2は、単元10、11で扱ったきまりをあらためて一般的にまとめる学習である。p.190の活動を省略し、既習のきまりを想起させた上でそれを一般的なきまりにまとめる学習に焦点化することで、第1、2時を1時間扱いとする。
		◎被乗数と乗数を入れ替えた積を比べ、乗法の交換法則が成り立つことをまとめる。	知 乗法の交換法則が成り立つことを理解している。	
	3	◎○の段と△の段の答えをたすと、 $(○+△)$ の段ができることを調べる。	知 ○の段と△の段の答えをたすと、 $(○+△)$ の段の答えができることを理解している。	
	4	◎乗法について成り立つ性質やきまりを活用して、乗数や被乗数が12までの乗法の答えの求め方を考える。	考 乗法のきまりを活用して、被乗数や乗数が12までの乗法の計算の仕方を考えている。	
	5 6	◎全体の個数を、乗法九九を活用して求めたり、個数を求める図や式から思考過程を読み取ったりする。	知 全体の数を乗法の式を用いて、求めることができる。 考 数のまとまりに着目し、全体の数を工夫して求める方法を考え、説明している。	
たしかめもんだい (教p.198)	7 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 乗法について成り立つ性質やきまりを理解し、それを用いて乗数が10の計算をすることができる。 考 数のまとまりに着目し、全体の数を工夫して求めたり、求め方を表した式を読み取ったりすることができる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

16 分数 (指導時期 2～3月・4時間) → 授業内4時間

単元目標

$1/2$ 、 $1/3$ 、 $1/4$ などの簡単な分数についてその意味や表し方、読み方を理解し、等分した大きさを分数を用いて表すことができる。

知 $1/2$ 、 $1/3$ 、 $1/4$ などの意味や表し方、読み方、単位分数ともの大きさとの関係を理解し、等分してできる部分の大きさを分数を用いて表すことができる。

考 もとの大きさや等分の操作に着目して、分数の表し方や部分と全体との関係を捉えたり、2等分した大きさの表し方をもとに、4等分などした大きさの表し方を類推的に考えたりすることができる。

主 いろいろな具体物を等分した大きさを表すのに分数を用いようとするなど、分数を生活や学習に生かそうとする。また、学習した分数をもとに発展的に新しい分数について調べようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 分数 (教p.199～204)	1 2	◎具体物を等分する操作を通して、 $1/2$ の意味や表し方、読み方を理解する。	知 もとの大きさを2等分した1つ分の大きさを $1/2$ と表すことを理解している。 考 もとの大きさや等分の操作に着目して、分数の表し方や部分と全体との関係を捉えている。	
	3 4	◎具体物を等分する操作を通して、 $1/4$ 、 $1/8$ 、 $1/3$ の意味や表し方、読み方を理解する。また、「分数」の用語とその意味を理解する。	知 もとの大きさを4等分、3等分した1つ分の大きさの表し方を理解している。 考 $1/2$ の学習をもとに、4等分した1つ分の大きさなどの表し方を類推的に考えている。 主 2等分、4等分の大きさの学習をもとに、8等分や3等分はどうかと発展的に新しい問題を見出している。	

17 はこの形 (指導時期 3月・5時間) → 授業内4時間 + 授業以外1時間

単元目標

箱の形やさいころの形を構成し、面や辺、頂点などの構成要素に着目して、立体図形の特徴を捉えることができる。
 知 正方形や長方形を貼り合わせたり、ひごや粘土玉を用いたりして、箱の形やさいころの形を構成することができる。また、面の形や数、辺の長さや数、頂点の数など、箱の形やさいころの形の構成要素の特徴を理解する。
 考 面、辺、頂点などの構成要素に着目し、その特徴を見出したり、構成の仕方を考えたりすることができる。
 主 立体図形に進んで関わり、箱の形やさいころの形を構成しようとしたり、特徴を調べようとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 はこの形 (教p.205~208)	1 2	◎身の回りにある箱の形やさいころの形の面を画用紙に写し取り、面の形や数を調べる。	知 直方体や立方体の面の形や数について理解している。 考 箱の形やさいころの形の面に着目し、特徴を見出している。 主 身の回りにある箱の形やさいころの形の面の形や数について調べようとしている。	直方体と立方体の面を写し取る際、グループで手分けするなどして効率的に行い、第1, 2時を1時間扱いとすることも考えられる。
	3	◎切り取った面をテープで貼り合わせて、箱の形やさいころの形を作り、面と面の位置関係を理解する。	知 面をつなぎ合わせて、箱の形やさいころの形を構成することができる。 考 箱の形やさいころの形の構成を通して、面と面の位置関係を見出している。	
	4	◎ひごや粘土玉を使って、箱の形やさいころの形を作る活動を通して、箱の形における「へん」、「ちょう点」の意味を知り、それぞれの構成要素の特徴を理解する。	知 ひごや粘土玉を用いて、箱の形を作ることができる。 考 箱の形の構成を通して、辺、頂点などの構成要素の特徴を見出している。	
たしかめもんだい (教p.209)	5 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 箱の形やさいころの形について、面の形や数、辺の長さや数、頂点の数などの構成要素の特徴を理解している。 考 面の形や数に着目し、箱の形を構成するのに必要な面を考えている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
読みとる力を のぼそう (教p.210~211)	1	◎さいころの対面の和が7になることを利用して、さいころの隠れた面の数を考える。	考 さいころを積んだときの見えない面の数の和について、さいころが2個のときをもとに考え、求め方を説明している。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
プログラミングに ちょうせん! (教p.212)		◎すぐろくの特定のます目に止まるための命令の組み合わせを考える。	考 数を多様にみて、どのように命令を組み合わせ、何回繰り返し処理をすれば、目的の数になるか考えている。	
2年の ふくしゅう (教p.213~216)	1 2 ↓ 1 時 間 扱 い	◎2学年の復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		問題を解くのは、授業以外の場とする。答え合わせは授業以外で行うか、授業内で1時間扱いで行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。